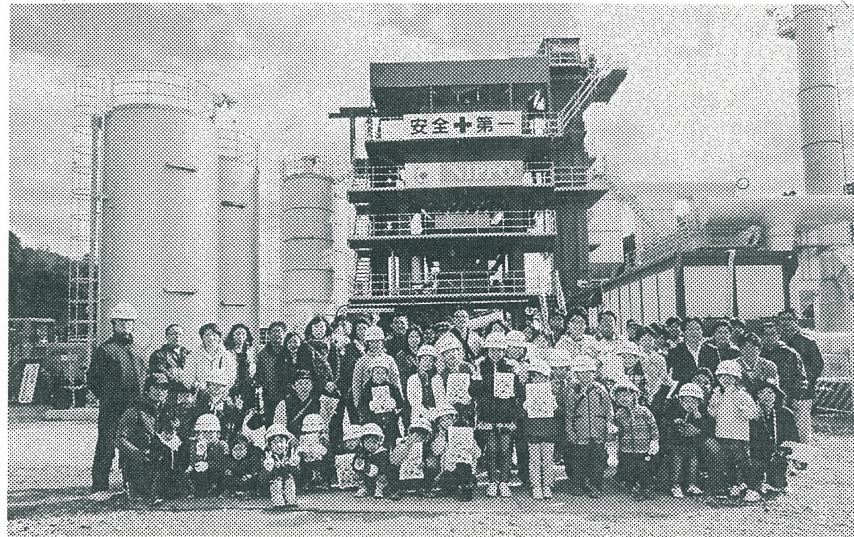


社会貢献活動通じ魅力再生



現場見学会には約70人が参加。「お父さんの仕事」を体感する機会となった

子どもたちに興味・理解促す

NIPPOは、社会貢献活動を通じて、建設産業や道路舗装会社に対するイメージの改善や正しい理解の促進に力を注いでいる。同社ホームページ(HP)上にキッズサイトを15日付で新設したり、学習まんがを同日に発行したりと、将来を担う子どもたちに向けて情報を積極発信。18日には子どもたちに興味や理解をより深めてもらうとアスファルト合材工場の現場見学会を開いた。昨年の東日本大震災以降、

NIPPO

「道づくり」をテーマにHPを拡充するなど、社会とのコミュニケーションを深めることで建設に携わる産業や企業の魅力再生につなげていく考えだ。

Ⅱ1面参照

同社では建設産業に対するネガティブなイメージが社会に浸透し、将来を担う若者の建設産業離れが進行しているとの危機感から、建設会社の魅力再生に向けた取り組みを開始。昨年6月に「ブランド力向上委員会」を設置し、

害に強い「道づくり・まちづくり」に今年5月には同社の歩みと道づくりの誇りや魅力を年代ごとのトピックスや写真で紹介する「日本の道づくりとNIPPO」をそれぞれ開設。さらに今月15日には子どもたちに道づくりの秘密を紹介する「キッズサイト『道づくり探検隊』」を公開した。

同社は次代を担う子どもたちに向けた働きかけに特に力を入れており、道路や舗装の基礎知識、道路舗装会社の

道路を身近に『道づくりのひみつ』出版

次代を担う子どもたちに道路や舗装の基礎知識や道路舗装会社の社会的使命を伝えようと、学習まんが『道づくりのひみつ』が制作・出版され、全国の国公立小学校や公立図書館に約2万6500冊が寄贈された。NIPPOが協賛し、学研パブリッシングが発行。子どもが道路や舗装を身近に感じ、興味を持つ機会を提供するとともに、教職員や保護者にも舗装会社の正しいイメージを伝えるツールとして活用してもらう。

Ⅲ3面に関連記事

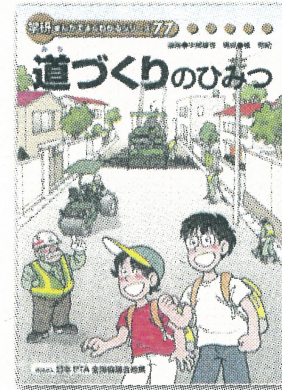
「学習まんががよくわかるシリーズ」の77作目。

子どもへ正しいイメージを

小学5年生を対象読者に想定している。冒険を通じて「道づくり」への興味を高める「まんが本編(計7章)」、アスファルトや合材工場などについて解説する「コラム」、道に関するミニ情報を提供する「まめちしき」で構成する。

NIPPOが資料提供や原稿作成などを担当。

日本PTA全国協議会の推薦図書として小学校(特別支援学校含む)に約2万3500冊、公立図書館に約3000冊を寄贈。非売品のためNIPPOは社会貢献活動の一環で子どもたちにプレゼントしたり、行政機関や企業に配布したりしていく考えだ。

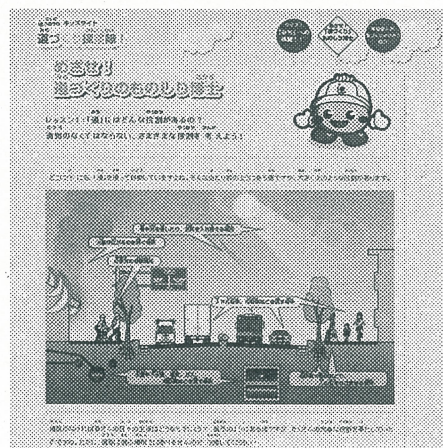


NIPPOが資料提供と原稿作成

「道づくり」をテーマにHPを拡充するなど、社会とのコミュニケーションを深めることで建設に携わる産業や企業の魅力再生につなげていく考えだ。

(1)面に掲載
(3)面に掲載

道はどんなつくりなのか、どうつくるのかなど子どもの疑問に答える「キッズサイト」



具体的な活動を推進している。社会とのコミュニケーションツールとしてHPを積極的に活用しているのが特徴だ。昨年7月に道路舗装会社の視点で自然災害に強いまちづくりをイラストで提案する「環境に優しく、災害に強いまちづくり」を制作した。

社会的使命を伝えるための学習まんが『道づくりのひみつ』を制作した。協賛企業として資料提供や原稿作成、費用負担など全面的に協力し15日付で発行、全国の国公立小学校や公立図書館に約2万6500冊を寄贈した。

学習まんがは、18日に関東第二支店が開催した「家族の日」現場見学会に参加した子どもたちにもプレゼントされた。従業員の家族を招いた見学会では、千葉県市原市の圏央道長南市原工事事務所の仮設プラントなどを案内。工事の概要やプラントの仕組みを解説しながら、道づくりの社会的使命や重要性をアピールした。

同社は今後も、社会に果たす役割や能力を積極的に発信するという意識変革と、具体的な行動を積み重ねていく方針だ。